

【2か年度(2年目)】芳賀・宇都宮LRTを基軸とした公共交通の利用促進(交通結節機能の高度化)による道路ストックを有効活用する社会実験(栃木県・栃木県芳賀町)

1. 実験概要

- LRT沿線内外の移動需要を把握した上で、交通結節点の機能強化や2次交通・3次交通のあり方を検討し、多様な交通モードの実証実験を行い、当該地域に適した交通形態を選別していく。
- 令和7年10月から令和8年1月まで、「カーシェアリング実証実験」を実施。
令和7年6月から11月まで、「高齢者への新たな移動支援と公共交通との接続に係る実証実験」を実施。

2. 実験内容、実験結果

実験 「カーシェアリング実証実験」

【概要】

- ・町公用車(N-VANe):2台を芳賀工業団地TCに設置
- ・土日祝のみ実施(無償)

【目的】

- ・芳賀工業団地TCからの端末交通(2次交通)としての有効性の検証

【結果】

- ・延べ70人利用
- ・利用者の居住地は町外が71%、うち24%が県外である。また、利用目的は娯楽目的(レジャー・買い物・観光等)の利用が多く、**町外からのLRTの2次交通としての有効性**を確認

実験 「高齢者への新たな移動支援と公共交通との接続に係る実証実験」

【概要】

- ・農業者トレーニングセンターで移動支援モビリティを貸出し
- ・交通不便地域の住民を対象に、町中心部への移動支援
- ・6月から11月まで、月2回実施

【目的】

- ・農業者トレーニングセンターを中心にモビリティハブとしての機能を検証

【結果】

- ・延べ114人利用
- ・実験区域において、**移動目的となる施設が概ね1km範囲に集約されていたことでモビリティの使用範囲**として適切
- ・利用者の**身体能力に適したモビリティ**であり、高齢者の移動支援として活用された



カーシェアリング実証実験



位置図



高齢者への新たな移動支援と公共交通との接続に係る実証実験

3. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

LRTの2次交通としての有効性を確認。 広域的な移動目的のための一つの交通モードとして有効

今回の実験区域として、歩道が広く整備されていたため走行しやすいというメリットもあった。 **モビリティに適した実施箇所**の選定が重要

【提案】多様な交通モードに適した需要や環境等のマニュアル整備、道路環境等を柔軟に活用できる制度設計

【2か年度(2年目)】芳賀・宇都宮LRTを基軸とした公共交通の利用促進(交通結節機能の高度化)による道路ストックを有効活用する社会実験(栃木県・栃木県芳賀町)

4. 意見と対応

有識者等からの意見	意見への対応
芳賀町ではなく、宇都宮でカーシェアを借りれば良いという考えもあるかと思うので、芳賀町に来てカーシェアを利用する人の動機を整理しておくと思格実施の際に役立つと思う。	実証実験の中で、目的地、利用目的、利用者の居住地等を分析し、今後本格実施に向けて検討していく。
宇都宮市と共同で策定している地域公共交通計画と並行して、各自自治体での自転車活用推進計画における「ラストワンマイル」の手段として、自転車やアクティブモビリティを位置づけてほしい。	令和6年度に行ったシェアサイクル実証実験の結果も踏まえながら、本地域に有効な末端交通の一つとして、自転車も含め、今後検討していく。

5. 本格実施に向けた課題と対応方針

本格実施に向けた課題		課題への対応方針
カーシェアリング実証実験	ランニングコストが課題。一方、当該地域において有償のサービスは困難。	実装にあたっては、民間活力の活用を含め、検討を進めていく。
	当該地域においてEV車の充電スポットが少なく、EV車充電スポットの整備が課題。	広域的に移動目的地を想定したEV車の充電スポットの整備について、検討を進めていく。
	公用車をカーシェアリングとして貸し出すことから、貸出しまでの運用面の効率化が課題。	他地域で実施している公用車のカーシェアリングの運用を学ぶとともに、手続面の効率化を検討していく。
高齢者への新たな移動支援と公共交通の接続に係る実証実験	移動支援モビリティの移動手段としての有効性は確認できたものの、町内は集落が点在しており、周辺集落から実験箇所であった町中心部までの移動手段の確保が課題。	町内の公共交通サービスを充実させるためには、周辺集落から町中心部までの移動手段や町内における移動支援モビリティの最適な普及箇所、モビリティハブの位置を含めて、周辺集落(各々の住居)から自動車以外で移動する手法を検討する必要がある。

6. 今後のスケジュール

- ・実験で得られた知見をもとに、**LRTからの2次交通及び 周辺集落の移動手段**、これら観点から当該エリアに最適な交通モードを引き続き検討していく。
- ・現在は、AIオンデマンド交通の導入を検討している。アプリ等により町外の方も含め簡易的に配車が可能、時間帯・土日祝日の運行の拡大、効率的な配車により町内の利用者の増を図るなど、**当地域に適したサービスを構築**を目指す。(R8年度中の実施を検討)
- ・本実証実験を通じ、**町内立地企業と共通の課題認識**を持つことができ、今後とも解決に向けて**連携していく体制を構築**することができた。民間の技術を取り入れながら、継続的に町の課題解決を図っていく。